

情報共有（改 非常用） 東京電力株式会社 11/2 10:45' FLX

NDA 班 ノーリスク方式手許資料

11月2日 福島地域支援室における9時からの定例レク概要をお知らせします。

11/2 (水) 9時定例レク概要

■レク出席人数：20名（記者16名、県1名、警察1名、自衛隊2名）

■レク実施時間：9:01～9:27

【説明内容】

<冒頭に>

○2号機PCVガス管理システムについて

- ・放出ガス核種分析を行ったところ、 $Xe-133$ ・ $Xe-135$ 検出の可能性あり。
2:48～3:47、念のため、ホウ酸4.80K注入。

①福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ（11月2日 6:00現在）【資料配付】

②TOPICS（作業実績・予定等）【口頭説明】

<実績>

○冒頭のホウ酸注入に関して

<予定>

○3号機ガス管理システム設置の準備について

- ・準備のため、R/B 1階通路上干渉物撤去作業をロボットにて予定

○3号機タービン地下たまり水を雑固体減容処理建屋へ移送予定

○4号機SFPへヒドラジン注入予定

○6号機取水路点検について

- ・堆積物浚渫作業は、作業環境が整わず、作業延期。

○6号機仮設タンクからメガフロートへの滞留水の移送について

- ・10～15時実施予定。

○遮水壁工事について

- ・ボーリング調査開始予定

○水処理関係について

- ・ベッセル交換なし

【主な質疑】

Q. 検出したかどうかの結果はいつ頃出るか。

A. まだ分からない。

Q. 調査を委託する第三者機関とはどこか。

A. 確認は取っていないがJAEAかと思う。

Q. キセノンが検出したと言えるのか。

A. エネルギーピークの立ち方があまり顕著でないため、はっきり出たとは言えない。

Q. 燃料棒等の温度が上昇しているのか。

A. 核反応があればヨウ素も検出されるがヨウ素131はNDである。また、格納容器温度等も上昇などの変化も見られない。

Q. これまでキセノンが検出されたことはあったか。

A. キセノン133、135に限っては、原子炉温度が100°Cを切ってから初めて。

Q. ヨウ素はNDとのことだが、その他核種はどうなのか。

A. まだ情報はない。

Q. ヨウ素が検出されずにキセノンが出る要因は。

A. まだ分からない。

Q. 11月12日のマスコミの1F取材への影響はあるのか。

A. まだ分からない。

Q. (キセノンは) 核分裂以外で検出される要素はあるのか。

A. あまり考えられない。

Q. 今回のスペクトルの分析で中性子については確認できるのか。

A. 今回の核種分析とは検査方法が違う。

Q. チャコールフィルターの分析は定期的なのか。

A. 定期的なものではない。

Q. 周辺のモニタリング状況は。

A. 異常な変動はない。

Q. ホウ酸の注入はいつ以来になるのか。

A. 確認する。

Q. ステップ2終了への影響はあるのか。

A. まだなんとも言えない。

以 上

情報発布

(1枚 非管理用)

NISA JPF ← フレステムルト
東京電力株式会社 11/2 12:00 LTZ

手許資料

11月2日 福島地域支援室における11時15分からの臨時レク概要をお知らせします。

11/2 (水) 11時15分臨時レク概要

- レク出席人数：22名（記者17名、国3名、県1名、警察1名）
- レク実施時間：11:16～11:23

【説明内容】

- 福島第一原子力発電所2号機
原子炉格納容器内の気体のサンプリング結果について【資料配付】

【主な質疑】

Q. 昨日15時過ぎにサンプル測定後、半日近く経過してからホウ酸を注入しているのは、なぜか？

A. 測定結果の分析や確認・評価を行い、それらに鑑みた炉内状況を踏まえ、ホウ酸の注入を実施したため。

Q. 中性子線の測定結果は、どうだったのか？

A. 2号機のR/B北西側・R/B西側（大物搬入口付近）・R/B南側、いずれも「 $0.01 \mu\text{Sv}/\text{h}$ 未満」であった。

以 上

情報交換 (1枚 非管理用) 東京電力株式会社

11/2 15時 FLX

NNA班 ← プレス关心手帳 手許資料

11月2日 福島地域支援室における15時からの定例レク概要をお知らせします。

11/2 (水) 15時定例レク概要

■ レク出席人数: 15名 (記者12名、県1名、警察1名、自衛隊1名)

■ レク実施時間: 15:01~15:17

【説明内容】

- ①福島第一原子力発電所プラント状況等のお知らせ (11月2日 午前10時現在) [資料配付]
②福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (11月2日 12:00現在) [資料配付]
③TOPICS (作業実績・予定等) [口頭説明]

<実績>

- 2号機 PCVガス管理システムについて

・本日、再度サンプリングを実施。現在、分析等を行っているところ。

- 3号機ガス管理システム設置の準備について

・ロボットによるR/B1階通路上干渉物撤去作業を開始。

- 3号機タービン地下たまり水を雑固体減容処理建屋へ移送について

・10:11より、移送を再開。

- 4号機 SFPヘビドラジン注入について

・10:16~12:10に実施。約2m³。

- 6号機 RHR (B) ポンプの確認運転について

・10:30頃から30分程度実施。

・その間、(A)系停止により、炉の冷却が停止 (温度上昇は、22.0°C→23.3°C)。

<予定>

本レクでの、新規お知らせは無し。

【主な質疑】

Q. 再サンプリングを実施した時間は?

A. 詳細については、現時点ではわからない。データをお示しする段階でお知らせしたい。

Q. JAEAでの検証・評価は、終わっているのか?

A. 終わったという連絡は、現時点ではない。一定の時間を要するのではないかと思う。

Q. ホウ酸の注入を継続して行っていないのは、なぜか?

A. (核分裂反応が継続していれば) 熱が発生し、パラメータに有意な変動が生じると
考へる。

今回は、パラメータ・MPに有意な変動がないことものの、念のため、明け方に
約480kgを注入することに至った。

Q. 7ヶ月、全く核分裂反応が起こっていないと、なぜ言えるのか?

A. これまで全く起こっていないとは想定していない。核分裂反応があったのかも
しれない、と考えている。

SQ. 一時的にだけ、核分裂反応が起こるということは、あるのか?

SA. 炉注水量の増減に影響され、そのようなことが起こることも考えられる。

Q. 「実は核分裂反応が継続していた」という想定外は、許されない。

最悪のシナリオで応動するべきではないか?

A. そういう観点で言えば、今回ホウ酸を注入したことは、(ピークの立ち方があまり顕著
でないものの) 万々一を考えて、実施したもの。

Q. 中性子線の測定は、大体、PCVからどの程度離れた位置か?

A. (測定箇所のひとつ) 大物搬入口付近は、数十メートル程度離れた位置。

以 上